

# 濟州島見聞録

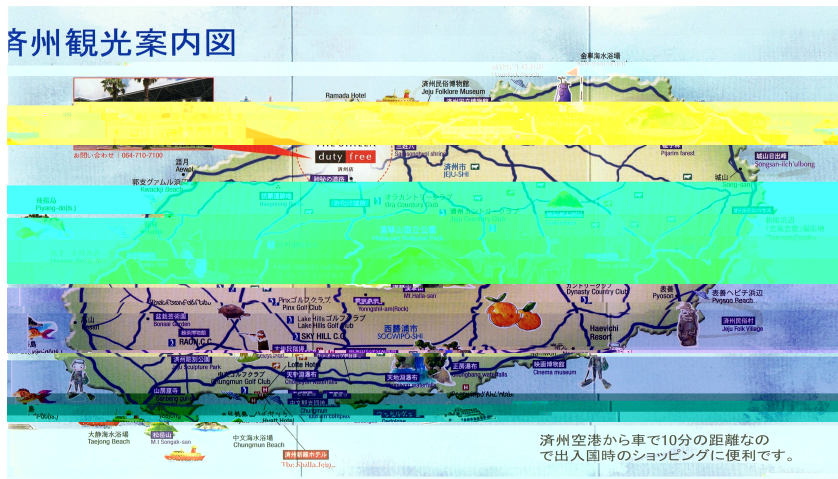
## 1. はじめに

10月29日から2泊3日で丸橋夫妻、安西君と濟州島に行ってきました。当初、10月4日から“青島に行って、青島ビールを飲もう！”という計画でしたが、反日暴動が起きたため、急遽濟州島に変更しました。

濟州島は朝鮮半島から南に100km離れた韓国最大の島です。気候温暖なことから“韓国のハワイ”と呼ばれ、ハネムーンのメッカ、あるいはゴルフ天国などと華やかなリゾートアイランドであるかのように宣伝されています。しかし、これは濟州島の全体像を示すキャッチフレーズではありません。イメージ先行で実態とはそっくりません。



今回のツアーは、北部と東部、それに西部の観光が中心で、南部には行きませんでした。南部は太平洋に面した海岸線が連なり、ここには政府が開発中の「中文観光団地」という一大リゾート地があります。おそらくここが“韓国のハワイ”なのでしょう。この「見聞録」は北部と東部中心の印象記であることを念頭にお読みください。





島のシンボル(トルハルバン)



ハルラ山、みかん、茅葺屋根

この2枚の写真は、濟州島を象徴する写真です。トルハルバンとは“石のおじいさん”という意味で島の守護神のことです。右の写真は、最高峰のハルラ山と特産品のみかん、伝統家屋の茅葺屋根が一緒に写っています。

本場のハワイは、太陽が燦燦とふりそそぎ、紺碧の海が広がっています。沖にはヨット、白い砂浜にはビーチパラソルが並び、海水浴だけでなく、ウインドサーフィンやシュノーケリングが盛んに行われています。このような光景は、北部、東部、西部にはありません。

リゾート開発地を除けば、島は貧しく、なにもないに等しいところです。本土と比べると経済的に遅れていることがわかります。住民1人当たりの所得が、韓国で最も低い地域であることは頷けます。

濟州島には、特筆する歴史や文化、芸術などは見当たりません。傑出した歴史上の人物もいません。土葬の風習や儒教の影響はあるものの宗教の強い影響も見受けられません。朝鮮半島にあるようなすぐれた神社仏閣や仏像、青磁器なども見かけません。孤立した島だったことが背景にあるのでしょう。

## 2 . 濟州島4・3事件

この「見聞録」を書くにあたり、濟州島の歴史を調べてみました。いくつかの新しい発見がありました。1948年4月3日、反共弾圧を理由に島内で暴動が起こり、多くの島民が虐殺されました。これを「濟州島4・3事件」といいます。政府はこの悲劇を長い間タブー視し公表しませんでした。



金大中大統領の時代になって、この非を認め島民に謝罪しました。これがリゾートアイランド化を推し進めている背景なのかもしれません。

南の島にも関わらず、地味で暗い影を感じるのは、火山島という痩せた土地と悲惨な歴史があったためではないでしょうか。

朝鮮時代、この島は流刑地でした。そのため本土から差別され、それも貧しい原因だったようです。古くから日本に出稼ぎに行き、そのまま定住する人がかなりいました。日本統治時代、密航などで日本に渡った人は20万人といわれ、その大半は済州島の出身者でした。

今でも在日コリアンのうち済州島人の割合は非常に高く大阪、東京では50%を占めるといわれています。大阪生野区一帯は“小さな済州島”と呼ばれているほどで、いかに済州島出身者が多いかが分かります。和田アキ子の父親も済州島出身だそうです。済州島で日本語を話す人が多いのは日本との交流が深いためなのでしょう。

### 3. 三多、三無、三麗

済州島の主要産業は、農業とみかん栽培、それに観光です。韓国の柑橘類のほとんどは済州島で栽培されています。原産地は日本です。米は獲れません。第2次産業はありません。海に囲まれていながら漁業は主要産業ではありません。これは意外でした。火山島のため海底が溶岩で覆われていて魚類が少ないためなのでしょう。あわびやサザエ、海苔が主な漁獲類です。魚類は太刀魚やアマダイ、海老、イカ、タコが目立つ程度です。

済州島は古来あわびの産地として名高く、海女が優秀だといわれてきました。伊勢志摩などにも出稼ぎで行っていたようです。済州島の海女は、専業ではなく農民が副業で潜っていたそうです。その目的は畑の肥料にする「馬尾草(ホンダワラ)」を取ることで、食用の海藻類や貝類は二の次でした。それが日本の海女との大きな違いです。それだけ土地が痩せていたわけです。



昔の海女の家と海岸であわびを売る現代の海女

済州島に「三多、三無、三麗」という言葉があります。三多とは石・風・女が多いことで、三無とは泥棒、門、乞食がないということです。三麗は美しい心、すばらしい自然、おいしい果物を表しています。この言葉は島の風土や伝統を簡潔に表現しています。

濟州島は季節風が吹き、台風の通り道です。これに対処するため、伝統的な家屋は石垣で囲われ、屋根が低いのが特徴です。沖縄によく似ています。女が多いのは、男は漁に出て遭難死することが多かったという意味ですが、働き者が多いという意味でもあります。



島の人々は、厳しい自然環境を克服するため、勤勉、節約、相互扶助を美德とし、貧しいながら互いに分ち合い、安全な土地柄だったことがこの言葉から窺い知ることが出来ます。しかし、これは古きよき時代の言葉で、生粋の島っ子は減少し、本土からの移住者が増えて、この伝統は過去のものになってきているようです。犯罪率は韓国で一番高いそうです。

観光は主要産業ですが、見るべきところは限られているため、観光目的のリピーターを惹きつける魅力には乏しい感じがします。本土に比べ気候は温暖なので、避暑客は期待できるかもしれませんが、“韓国のハワイ”を目標に、リゾート開発に力を入れているのはよくわかります。

観光客を除けばゴルファーが圧倒的に多い感じです。それが証拠に、この小さい島に33ヶ所もゴルフ場があります。韓国全土では70ヶ所ですから、その半分がここにありま。いかに多いかがわかります。ただし、料金は必ずしも安くはありません。私もゴルフで来たいとは思いますが、観光でくるつもりはありません。

濟州島には大学が5校あるそうです。卒業生は島内で就職先がないため、男子は本土または海外に渡ってしまうようです。女子はゴルフ場のキャディーになるのが少なくないそうです。就職先がないことが理由ですが、実入りがよいという経済的な理由もあるようです。濟州島では学士のキャディーと回ることが出来ます。

#### 4. 濟州島の歴史と観光スポット

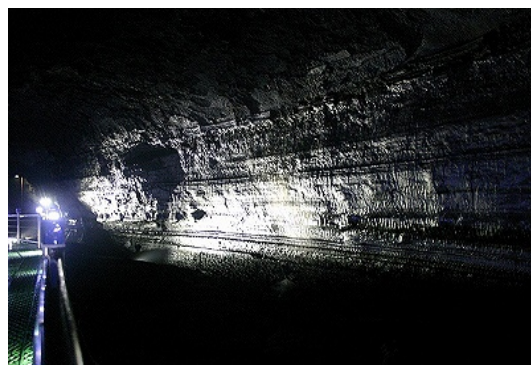
濟州島は200万年前に海底火山の噴火によって出来た島です。全島が玄武岩で覆われており、溶岩流でできた洞窟は、地質学的価値が高いことから、ユネスコの世界自然遺産に登録されています。この洞窟は「万丈窟」と呼ばれ、全長7kmありますが、そのうち1kmが公開されています。



出入口



この洞窟が観光スポットのひとつです。この中を歩きました。洞内は舗装されていないため、でこぼこしています。その上照明も暗いので、足元を気にしながらの見学になります。約1時間のコースですが、かなり足にきます。溶岩の流れた痕跡をまじかに見ることができ、地球の中はこうなっているのかと実感出来ます。地質学に興味のある人には必見の場所でしょう。



太古の時代に「高・梁(良)・夫」という3つの姓を持った神様がいたと伝えられています。日本では天孫降臨ですが、この三神は大地の穴から地上に出現しました。いかにも火山島らしい神話です。その穴のある場所が「三姓穴」で史跡になっています。これも観光スポットです。



耽羅国発祥の地を示す石碑(三聖殿)



三神が現れた穴(囲いの中)

三神が成人した頃、東の海からノアの方舟のような木造船が現れます。その船に家畜や五穀の種などと共に3人の美しい姫が乗っていました。その姫は三神の配偶者となり、三神は島を3つに分け国づくりに励み、やがて王国へと発展して行きます。これが濟州島の始祖伝説です。

島には今も「高・良・夫」の姓を持つ人が多いそうです。われわれのガイドは「高京希」という女性でしたが、彼女の祖先もこの島で生まれ育ったとっていました。因みに三神の配偶者になった3人の姫は、日本人だったという説があります。

紀元前3世紀ごろに「耽羅(たんら)」という独立王国が誕生します。百済や新羅、高麗などと交易が行われ、日本とも交流がありました。その後、百済や元によって「耽羅国」は滅ぼされ、現在は濟州道という韓国の地方都市となっています。

耽羅国が誕生した頃、日本は弥生時代で中国は秦の始皇帝の時代でした。秦は文化・文明的にもすでに大帝国でした。日本の弥生時代は、稲作が始まり農耕社会となりますが、文字もなく、

周囲を壕で囲んだ大規模な集落が各地に出現したものの、国と呼べる規模ではありませんでした。邪馬台国が生まれるのはもっと先の話です。王は存在せず部族の長が支配していた時代でした。

耽羅国は王朝と称していますが、日本の弥生時代のような規模だったようです。王様が住む宮殿のような建物もなく、律令や階級制度も曖昧で、史書のような記録もなかったようです。王朝というよりは部族国家のようなイメージだったのではないのでしょうか。

王室や皇室のない国では、すぐれた料理人や陶芸家、画家などの芸術家は生まれません。濟州島の料理が平凡で、食器類も日常雑器であるのは、耽羅王国がその程度の規模だったからでしょう。

「城邑民俗村」に行きました。この村は、数百年にわたって島の中心だったところです。伝統的な石壁と茅葺屋根の家屋が350軒ほど保存され、国の民族資料保護区域に指定されています。城や城壁などがあったようですが、その全体像を見ることは出来ませんでした。



石の壁と茅葺の屋根

古いガイドブックには、「城邑民俗村」は昔の濟州島の村の形態を守っている由緒深い村であり、濟州島に住む人々の生活する姿を直接見ることができる生きた文化遺産である」と紹介されていたようです。あるブログに、「20年前までは、普段住んでいる住居も自由に見学が出来たが、最近では村を幾つかの区域に区切り、観光用の住居を建てて、その中で観光客相手に、濟州島の昔の生活等の説明を簡単に行い、本来の目的である土産物売るのが実情です」との体験談が書いてあり、「行く価値なし！」と一刀両断です。



村のガイド、五味子(茶)と冬虫夏草(丸薬)

事実はまったくその通りでした。観光用に公開されている家屋に案内され、昔の生活について簡単な説明を受けました。しかし、文化遺産を見るというよりは、この村だけの専売だと称する“五味子(お茶)”と“冬虫夏草(丸薬)”の売込みに付き合わされました。これらはいわゆる健康食品の類ですが、催眠商法まがいの強引なセールスには辟易しました。セットで数万円もする高額商品です。ガイドもこの村の住民に限られています。これは政府の保護策ですが、観光にはマイナス効果だと思います。

昨年、慶州にある「良洞村」を見ました。この村には李朝時代初期(1392)の伝統的な古い家屋150軒余りが当時のままの状態で見守られています。城邑民俗村は、ここと似ているのではないかと楽しみにしていましたが、規模と質はまったく違っていました。

城邑民俗村にある家屋が「濟州民俗村」にもあります。ここは民間が開設した野外博物館で、濟州島の歴史的家屋や民俗資料が一堂に集められています。ここを見れば濟州島の全貌がわかるようになっていきます。「城邑民俗村」よりもはるかに良心的です。



濟州民俗村の入口



丸太船

濟州島の見所は、つまるところ自然環境だと思います。噴火によって出来た奇岩や怪石、隆起した岬などです。標高1,950mのハルラ山はその筆頭です。この山は韓国の最高峰で、古くから靈山として崇められてきました。その中間地点にある展望台まで行きました。途中にはすすきや薄く色づいた紅葉、樹林などが広がり富士山の裾野を思わす風景です。



城山日出峰

東端の海に突き出た「城山日出峰」は海拔180mの寄生火山です。ここも観光スポットです。ここから見る朝日がすばらしいことからこの名前が付いています。日の出を見ることは出来ませんでしたが、その頂上まで急な石段を40分ほど掛けて登りました。これは健脚向きのコースです。すり鉢上の火口は草に覆われ、野生の動植物がいるそうです。眼下に海岸線や街を一望することができます。



登山道、展望台、頂上、眼下の景色

濟州島の面積は1,824km<sup>2</sup>です。佐渡島の約2倍で、シンガポールの2.6倍あります。かなり大きい島です。高速道路や鉄道はありません。人口は55万人です。「濟州島4・3事件」の前は28万人でしたが、この事件で数万人が犠牲になり、多くの島民が海外へ逃避したため、島の人口は3万人に激減したといわれています。

その後、島に戻った人がどれだけなのかわかりませんが、55万人の大半は他所から移ってきた人たちではないかと思えます。それはゴルフ場やリゾート地など観光開発と無関係ではないと思えます。島の伝統が失われてきたのは、当然のことでしょう。

## 5. 旧市街と新市街

われわれが泊まったホテルは、海沿いの旧市街にある“オリエンタルホテル”です。この周辺を旧濟州と呼び、かつては中心市街地でした。



なんとオーシャンビューのスイートルームでした！？

部屋から海が見えます。飛行場が近いので、飛行機も見えます。



これに対して内陸側に出来たのが新濟州エリアです。ここが新興市街地でファッションストリートやレストラン街、大型ホテルが立ち並び、繁華街になっています。

この一角に免税店があります。ツアー客は否応なしに免税店に連れていかれます。この日も中



国からの団体客でごった返していました。持ちきれないほどの紙袋を抱え、店の前の路上に座り込み、大声を出しています。マナーの悪さは相変わらずです。

小生は免税店には関心がないので、この周辺を散策しました。スポーツ用品店が軒を連ねる通りがあります。ナイキやアディダス、フィラといった有名ブランド店が並んでいます。ゴルフや登山、ジョギングなどの用品がバーゲンで売られていました。ゴルフ場が多いとはいえ、なぜこんなにスポーツ用品店が多いのか不思議な感じがします。

この通りの先にレストラン街があります。韓国料理店と海鮮料理店が圧倒的ですが、日本料理店も何軒かあります。中華料理の店は見かけません。ほとんどの店先には“**歡迎光臨**”と中国語の看板が掲げてあります。中国人客を無視することが出来ないのでしょう。

免税店に限らず、ホテルや観光地、ショッピングモールには中国人が目立ちます。彼等は飛行機ではなく大型クルーズ船に乗って、数万人単位で来るそうです。マナーの悪さには目をしかめても、その購買力には膝を屈するしかないのでしょう。中国の富裕層に対し、ビザなし訪問を解禁したことが大勢の中国人が来る原因のようです。

政府の発表によれば、今年韓国を訪れた外国人観光客は初めて1,000万人を越えたそうです。第1位は日本人で、第2位は中国人だそうです。濟州島に関する限り、第1位は中国人のような感じがします。

キムチや海苔は韓国の特産品と思っていたら、最近是中国製が多いそうです。買う時には「韓国100%」の表示を確かめるようにと注意されました。中国の進出はこんなところにも現れています。

2日目の夜は、オプションには参加せず、インターネットで見つけた「**Rajmahal**」というインド料理店に行きました。場所がわからずうろろしました。オーナーはパキスタン人ですが、本格的なインド料理を味わいました。彼は日本に留学し、5年間滞在したとかで、日本語も達者でした。彼によれば、日本人の在住者は約3,000人とのことです。日系企業が少ないからでしょう。

Indian Restaurant  
**RAJMAHAL**  
(인도음식전문점-라지마할)

탄두리치킨 (Tandoori)  
바베큐  
매운 수제요거트 소스에 재워둔 닭  
탄두리 화덕에 구워낸

치킨커리 (Curry)  
먹기 좋은 크기의 닭고기를  
토마토, 그래비와 버터, 향신료를  
넣어 만든 커리.

난 (Nan)  
밀가루를 우유와 달걀로만  
반죽하여 숙성시킨 뒤 탄두리에  
구워 낸 인도 정통의 빵

점심세트 (Lunch Set)  
시간 : 11:30 ~ 15:00  
샐러드 · 탄두리치킨 · 치킨커리  
달마카니 · 난과 밥 · 디저트

2F, 271-13, Yeon-deok, Incheon  
02-749-4924

最終日は出発までフリーでした。他の参加者はオプションの観光に出かけましたが、われわれはホテルの前にある「E マート」で買い物をし、その後「中央地下商店街」と「東門市場」を散策し、市民生活の実態を体験しました。



Eマートはロッテマートと並んで韓国の2大スーパーマーケットです。地下にある食料品売り場は品揃えが豊富でした。日本語のわかる店員がいて、キムチの選定をしてもらいました。3Fと4Fには外国人専用コーナーがあって、日本人や中国



人向けに海苔や蜂蜜、チョコレートなどを30%~80%引きで販売していました。韓国の値段はどれが正しいのかまったくわかりません。

中央地下商店街には280店舗があります。衣料品店がほとんどで、あとは化粧品とアクセサリの店です。レストランはファストフード店が数軒あるだけで、ファッション専門店街といった感じです。客足もまばらで商売が成り立つのか気になりました。



東門市場は、済州島で最大の市場です。海産物が中心で、キムチや唐辛子、特産のみかんなどの店舗が軒を連ねています。時間帯がそうなのか、ここも客はまばらで市場特有の活気は感じられませんでした。



このように、済州島にはいわゆる“名所旧跡”はありません。韓流ドラマのロケ地がいくつかあるので、ファンにはよいかもしれません。一言でいえば“田舎”ですから、ショッピングやグルメ、エステなどは期待できません。観光派には飽き足りないところです。その代わりに風光明媚ですので、四季の変化や景観を楽しむにはよいところです。登山、トレッキング、ハイキング、マリンスポーツなどゴルフや乗馬を含め、アウトドア派には向いていると思います。

これで今回のツアーの報告はおしまいです。

## 6 . 国際自由都市構想

最後に“韓国ハワイ”構想について触れたいと思います。済州島の大規模リゾート開発は、1960年代に始まりました。南部の「**中文観光団地**」はその典型的な例で、ここにはハイヤットホテル、新羅ホテル、ロッテホテルなどの超高級ホテルが立ち並び、ワールドカップ競技場、国際コンベンションセンターやカジノなどさまざまなレジャー施設があります。韓国における一大観光拠点で、まさに“韓国ハワイ”です。



しかし、“島のハワイ化”は、済州島開発計画のホンの一部に過ぎません。調べてみたら、驚くべき壮大な開発計画のあることがわかりました。それは香港やシンガポールをイメージした「**国際自由都市**」構想です。具体的には、先端科学技術団地、ヘルスケア・メディカル・タウン、休養型住居団地、英語教育都市など6つの大規模プロジェクトです。



ヘルスケアセンター



英語教育都市

これらは既に動き出していて、そのほとんどは2015年までに完成することを目指しています。

この他にも全羅南道と海底トンネルで結ぶ構想や海軍基地の建設などがあります。中文リゾート付近には旧日本軍の施設跡があり、そこに海軍基地を建設しているようです。これは北朝鮮および中国の脅威をにらんだ対応策でしょう。



旧日本軍の地下壕



同格納庫

急激な開発はさまざまな副作用を生みます。ある調査報告によれば、第1次計画の問題点として、次のような指摘があります。

外部の大資本による開発の結果、利益の大半は外部へ流出し、開発に対する島民の疎外感と拒否感が表出した。

自然環境が大きく破壊され、伝統文化が失われ、共同体意識が薄れてきた。

地域間格差が拡大し犯罪が増加した。

この調査結果から、開発の恩恵に置き去りにされている島民の姿が浮かび上がります。島民の不満ややりきれなさが透けて見えます。島を巡ってなんとなく違和感を覚えるのは、観光客だけではなさそうです。

政府はこれらの反省点に立って、開発計画を見直し、下水道や道路など住民重視のインフラ整備に力を入れ始めたようです。同時に、「**神話・歴史公園計画**」や「**西帰浦観光美港計画**」など島民に配慮した新規プロジェクトを加えたようです。

## 7. むすび

濟州島は素朴で穏やかで慎ましいというイメージから大きく変わろうとしています。しかし、われわれが見た限りでは、「**国際自由都市**」を窺わせるものは影も形もありませんでした。

本場ハワイは、原住民が駆逐され、外来者の島になりました。濟州島も同じ運命を辿るのでしょうか。目論見通り、第2のシンガポールが実現するのでしょうか。

再び訪れる機会があれば、「国際自由都市」の進展ぶりを見たいものです。しばらくは、濟州島のニュースから目が離せません。

お読みいただきありがとうございました。

完